大崎短歌会

兼題『鯉のぼり』

悠々と空高く翔べ鯉のぼり
　気高き志花開く時期　井元かず子

鯉のぼり小さく畳まれ五歳児の
　眠る柩に収められたる　山下海征

蒼空にゆったり泳ぐ鯉のぼり
　平和であれと祈り眺むる　穂園芳江

武器として無視することの哀しさに
　見上ぐる空を鯉のぼり舞う　本後淑子

皐月来たからりと晴れた蒼天に
　男の子祝ぐ鯉幟煌く　実吉安仁

凪の来て縦に休める鯉のぼり
　真鯉緋鯉は滝登り期し　馬場みさ

パタパタと音立ておよぐ鯉のぼり
　子らの幸せ一気に孕み　坂元つる子

薩摩郷句

兼題『養生』

持病同志が　養生ん湯治場で　親しゅなっ
　（唱）膝が腰がち　話が弾ん　諸木小春

爺の養生あ　山と畑と　焼酎一杯
　（唱）一杯楽しみ　汗を流せっ　諸木美舟

口養生を　すっとが先ち　医者が叱っ
　（唱）少っと痩せんな　大変しち脅せっ　上村牛歩

大変養生を　気張った先で　見たメダル
　（唱）メダル夢見っ　歯を食いしばっ　上窪小絵

頭の養生い　郷句が一番の　薬いなっ
　（唱）女房を題材い　良か郷句が出来っ　北村虎王

口の養生　コップん焼酎を　盃き替えっ
　（唱）亭主な盃っでな　落て着かんじゃろ　遠矢酎多

ペンキ塗い　養生は半端で　日曜大工
　（唱）暗ろなっしもた　宿題や来週　藤元鬼瓦

腰が痛て　グランドよっか　養生が先
　（唱）雨が降らんな　休んがならん　長重リリー

痔の養生い　湯治で治らじ　一斗甕
　（唱）やけくそいなっ　焼酎どん喰ろっ　二見愚楽満

目の養生い　天ぬば仰っ　星しゅば追っ
　（唱）星のお陰か　視力が上がっ　西ノ園ひらり

養生をせち　口ばっかいで　加勢もせじ
　（唱）口ちゅ出しとなら　手をば出せ言っ　満石うらら